
令和6年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

令和6年3月6日

質問者（質問順）

- 1 坂井 太 委員（維新会）
- 2 宇佐美 さやか 委員（共産党）
- 3 東 みちよ 委員（自民党）
- 4 伏見 幸枝 委員（自民党）
- 5 市来 栄美子 委員（公明党）
- 6 田中 ゆき 委員（立憲党）
- 7 坂本 勝司 委員（民主フ）

水道局

局 別 審 査

1 坂 井 太 委員（維新会）

1 令和6年度予算編成について

- (1) 予算編成の基本的な考え方について伺いたい。
- (2) 令和6年度予算において重視する取組について伺いたい。
- (3) 今後の水道事業運営への決意について伺いたい。

2 能登半島地震の支援状況について

- (1) 応急給水及び復旧の派遣者人数について伺いたい。
- (2) 被災地への復旧支援の内容について伺いたい。
- (3) 水道局の災害対応力強化に向けた考え方について伺いたい。

3 送配水管の更新・耐震化について

- (1) 令和6年度の具体的な事業内容について伺いたい。
- (2) 令和6年度の事業費増加の要因について伺いたい。
- (3) ダウンサイジングによるコスト縮減について伺いたい。
- (4) 更新・耐震化の今後の展望について伺いたい。

2 宇佐美 さやか 委員（共産党）

1 小雀浄水場の存続について

- (1) 小雀浄水場を廃止した場合の災害時のリスクについて伺いたい。
 - (2) 1水源1浄水場でリスクを分散する考え方の変更の有無について伺いたい。
 - (3) 水道システムの再構築で実施する企業団による施設整備の全容と金額について伺いたい。
 - (4) 再構築した場合に必要な施設整備費用のうち本市の負担額について伺いたい。
 - (5) 市民の合意なしに小雀浄水場を廃止すべきではないと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 小雀浄水場を廃止せず、市南部の拠点として災害時に備え、ダウンサイジングをして存続していただきたい。

2 災害時の備えについて

- (1) 災害時給水所での地域住民との連携について伺いたい。
 - (2) 災害時給水所で行う訓練の民間企業との連携について伺いたい。
 - (3) 民間企業との連携協定の内容及び能登半島地震を受けて協定を改定する考えがあるのかについて伺いたい。
- (要望) しっかりと民間企業との連携協定を見直していただきたい。

3 水道技術職の採用について

- (1) 水道技術職の新年度採用予定人数について伺いたい。
 - (2) 水道技術職の採用開始時期及びこれまでの採用人数について伺いたい。
 - (3) 水道技術職採用者のうち在籍人数及び現在の配属先について伺いたい。
- (要望) 引き続き水道技術職の採用を続け、災害時に迅速に対応できるよう職員を育成していただきたい。

4 浄水場における技術継承について

- (1) 浄水場の技術職員の年齢構成について伺いたい。

(2) 浄水場技術職員の技術継承の取組について伺いたい。

(要望) しっかり一対一で技術を伝えることができるような仕組みを設けていただきたい。

1 災害派遣と今後の対応について

- (1) 今回の応急復旧活動にあたっての課題について伺いたい。
 - (2) 現地での関係機関との連携について伺いたい。
 - (3) 被災地支援の知見を活かす今後の対応について伺いたい。
- (要望) 厳しい環境の中で作業した職員のケア、健康管理もしっかりフォローしていただきたい。

2 液状化想定地域の送配水管の更新・耐震化について

- (1) 液状化による水道管への影響について伺いたい。
- (2) 液状化想定地域の耐震化状況について伺いたい。
- (3) 液状化想定地域の耐震化の進め方について伺いたい。

3 給水管の更新・耐震化について

- (1) 老朽化した給水管の残存数について伺いたい。
- (2) 老朽化した給水管の解消に向けた取組について伺いたい。
- (3) 事業を進める上での課題と対策について伺いたい。

4 災害時の飲料水確保について

- (1) 災害時給水所の整備状況について伺いたい。
- (2) 災害時給水所の認知度向上の取組について伺いたい。
- (3) 横浜市管工事協同組合との協力体制について伺いたい。

5 東寺尾送水幹線の更新・耐震化について

- (1) 東寺尾送水幹線の更新・耐震化の意義について伺いたい。
 - (2) 東寺尾送水幹線の更新・耐震化工事の計画について伺いたい。
 - (3) 災害等により断水が起きた際の対応方法について伺いたい。
- (要望) 工業用水道を災害発生時にも安定的に供給できることを目指して、施設の

更新・耐震化を着実に進めていただきたい。

6 水道局関係者を装う不審者対策について

- (1) 水道局関係者を装う不審者についての市民への周知について伺いたい。
- (2) 通報があった場合の関係機関との連携について伺いたい。

7 水道施設の維持管理の強化とアセットマネジメント推進について

- (1) アセットマネジメント推進の背景・経緯について伺いたい。
- (2) 具体的な維持管理強化の取組について伺いたい。
- (3) マッピングシステムを活用した効果的な維持管理の工夫について伺いたい。
- (4) 期待される効果について伺いたい。
- (5) アセットマネジメント推進の取組に対する見解について伺いたい。

4 伏見幸枝委員（自民党）

- 1 横浜市の水道システムの将来の方向性について
 - (1) 小雀浄水場を廃止することとした考え方について伺いたい。
 - (2) 浄水場の耐震化状況について伺いたい。
 - (3) 小雀浄水場の廃止について市民に周知する取組について伺いたい。
 - (4) 最適な水道システムの実現に向けた今後の進め方について伺いたい。

(要望) 他の水道事業者とも密に連携を図り、財源の確保に向け取り組みながら施設整備を進め、本市にとって最適な水道システムを構築していただきたい。
また、市民や議会に適宜、進捗を報告していただきたい。
- 2 災害時における他都市等との連携強化について
 - (1) 他都市等との相互応援の仕組みについて伺いたい。
 - (2) 日本水道協会における本市の役割について伺いたい。
 - (3) 名古屋市と連携している理由と内容について伺いたい。
 - (4) 他都市等との連携に関する今後の取組について伺いたい。
- 3 水管橋や共同溝内等の露出管路の維持管理強化について
 - (1) 水管橋や共同溝内にある管路の維持管理方法について伺いたい。
 - (2) 維持管理の強化に至った背景について伺いたい。
 - (3) 具体的な強化内容について伺いたい。
 - (4) 新たな強化策を進めていく狙いについて伺いたい。
- 4 再生可能エネルギーの導入促進について
 - (1) これまでの再生可能エネルギー導入の取組について伺いたい。
 - (2) 今後の太陽光発電導入の進め方について伺いたい。
 - (3) 新たに小水力発電の導入可能性が出た理由と調査の内容について伺いたい。
 - (4) 再生可能エネルギーの導入促進に向けた意気込みについて伺いたい。

5 水道の手続等に関する利便性の向上について

(1) 上位100手続のオンライン化の進捗状況について伺いたい。

(2) 水道料金の支払いの利便性向上について伺いたい。

(3) 利便性向上に向けた更なる取組について伺いたい。

(要望) サービスとコストのバランスをしっかりと意識しながら、より一層DXを推進し、今後も市民の利便性を高める取組を展開していただきたい。

6 給水スポット設置による水道水のPRについて

(1) 給水スポットを設置する狙いについて伺いたい。

(2) 給水スポットの効果的な広報について伺いたい。

(3) 給水スポットから水を飲んでもらうための工夫について伺いたい。

(要望) 市民や海外からの来街者にもおいしい横浜の水を供給できるよう、給水スポットの設置に向けて引き続き頑張ってください。

1 災害時の通信体制の強化について

- (1) 災害時における通信体制確保の考え方について伺いたい。
- (2) 5ギガヘルツ帯無線網を拡充していく理由について伺いたい。
- (3) 発災時に備えた5ギガヘルツ帯無線網の利活用の取組について伺いたい。
- (要望) 本市が被災した際に、少しでも早い復旧につなげられるよう、通信体制の強化を着実に進めていただきたい。

2 水道管の附属設備の維持管理強化について

- (1) 今回発生した仕切弁事故とマンホール蓋の落下事故の原因について伺いたい。
- (2) 仕切弁やマンホール蓋の点検状況について伺いたい。
- (3) 今回の事故を受けた対策について伺いたい。
- (4) 附属設備を維持管理する際の課題について伺いたい。
- (5) 効率的な水道施設の維持管理について伺いたい。

3 水道工事における働き方改革について

- (1) 水道局の工事における週休2日制の取組状況について伺いたい。
- (2) 施工時期の平準化のためのこれまでの取組について伺いたい。
- (3) 令和6年度の平準化の取組について伺いたい。
- (4) 水道局の工事における働き方改革に向けた考えについて伺いたい。
- (要望) 安全・安心な水を安定的に届け続けるために、水道工事における働き方改革に取り組み、水道施設の更新事業を着実に進めていただきたい。

4 道志水源林の管理について

- (1) 水源林管理に係る水道局の考え方について伺いたい。
- (2) 水源林のナラ枯れ対策について伺いたい。
- (3) ナラ枯れ対策におけるドローン活用の効果について伺いたい。
- (4) 水源林管理におけるドローン活用の可能性について伺いたい。

(5) 末永く道志の清流を守っていく思いについて伺いたい。

5 有機フッ素化合物への対応について

(1) 有機フッ素化合物の問題に対する所感について伺いたい。

(2) 有機フッ素化合物に対する具体的な取組について伺いたい。

(3) 水道行政の移管による水質管理への影響について伺いたい。

(4) 水質管理に関する今後の国への働きかけについて伺いたい。

(要望) 水道行政の移管によって生じるメリットを十分に生かし、安全・安心な水道水をいつでも供給できるように、水源から蛇口までの一体的な水質管理の強化を図っていただきたい。

1 送配水管の更新・耐震化工事における他の占用企業者との連携について

- (1) 各占用企業者が協力して工事を進めるための取組について伺いたい。
- (2) 共同施工の取組による効果について伺いたい。
- (3) 共同施工の今後の進め方について伺いたい。

2 次世代型太陽電池の導入促進について

- (1) 次世代型太陽電池導入に向けた検討状況について伺いたい。
 - (2) 水道局におけるペロブスカイト太陽電池のフィールド提供の可能性について伺いたい。
 - (3) ペロブスカイト太陽電池が水道局の脱炭素化にもたらす効果について伺いたい。
- (要望) ペロブスカイト太陽電池の実用化への取組を支援していただきたい。また、今後も脱炭素化を推進する次世代エネルギーの導入に積極的に取り組んでいただきたい。

3 水道水質の安全性に関する広報の取組について

- (1) 水道水質の安全性に関する広報の課題認識について伺いたい。
 - (2) 水道水質の安全性を分かりやすく伝える新たな取組について伺いたい。
- (要望) ウェブページのみならず、子供から大人まで誰にでも分かりやすい広報を工夫していただきたい。
- (3) 有機フッ素化合物に関する情報発信の考え方について伺いたい。
- (要望) 引き続き、安全性確保のための検査体制の充実及び市民ニーズに対応した分かりやすい情報発信に努めていただきたい。
- (4) 水道水質が安全・安心であることを市民目線で分かりやすく広報していくことが重要と考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) あらゆる媒体、あらゆる機会を活用し、市民に水道水の安全性が伝わる広報を強化していただきたい。

4 子供たちに水道水を身近に感じてもらう取組について

(1) これまでの主な取組について伺いたい。

(2) 学校直結給水化の実績と子供たちの反応について伺いたい。

(3) 給水スポット設置によって子育て世代にアプローチする狙いについて伺いたい。

(要望) 親子が多く集まるような場所で、水道水が良質で美味しいと実感いただける取組をより一層推進していただきたい。

(4) 出前水道教室の狙いについて伺いたい。

(5) 海外の水道事業への貢献を通じて、子供たちに水道水の大切さを感じてもらう取組について伺いたい。

(要望) 本市の水道水の安全性や美味しさをより多くの市民に知っていただき、皆様に選ばれる水となる取組をより一層推進していただきたい。

(6) 生命の維持に欠かせない重要なインフラを持続可能なものとするためには、市民に水道水の安全性や質の高さを十分理解していただき、選ばれる水となるよう、局を超えた市一体の取組が重要と考えるが、見解を伺いたい。

1 西谷浄水場の再整備について

- (1) 再整備における地震対策の考え方について伺いたい。
- (2) 前年度に比べて令和6年度予算が大きく増額した理由について伺いたい。
(要望) 進捗管理に加えて、安全面の管理も怠ることが無いようお願いしたい。
- (3) 物価上昇を考慮した再整備の総事業費の見込みについて伺いたい。
- (4) 外部環境によるリスクを踏まえた再整備の進め方について伺いたい。

2 浄水場における火山灰対策について

- (1) 西谷浄水場ろ過池の降灰対策の状況について伺いたい。
- (2) BCPを踏まえた降灰対策の取組について伺いたい。
- (3) 降灰対策の今後の考え方について伺いたい。

3 事業推進における経営努力について

- (1) 令和6年度の経費節減の取組について伺いたい。
- (2) 令和6年度の財源確保の取組について伺いたい。

4 工業用水の利用促進について

- (1) 工業用水道における水需要の現状について伺いたい。
- (2) 工業用以外の工業用水の利用促進の考え方について伺いたい。
(要望) ピンチはチャンスと考えて、工業用水を緑地の植栽への散水に利用するなど、環境創造局等とも連携し、緑にまつわる仕組みづくりの取組を進めていただきたい。